

医学教育分野別評価 埼玉医科大学医学部医学科 年次報告書

2025（令和 7）年度

医学教育分野別評価の受審 2021（令和 3）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.33

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36

はじめに

本学医学部医学科は、2021（令和 3）年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022（令和 4）年 10 月 1 日より 7 年間の認定期間が始まった。医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36 を踏まえ、2025（令和 7）年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2024（令和 6）年 4 月 1 日～2025（令和 7）年 3 月 31 日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

評価報告書の領域 1.2、領域 1.3 および領域 1.4 の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、カリキュラムの検討への学生の参画、使命や学修成果の見直しへの学生の参画、学修成果のさらなる周知等の助言・示唆を受けた。これらに対し 2021（令和 3）年度～2023（令和 5）年度は、カリキュラム委員会への学生の参画の充実、1～4 年生および 6 年生を対象とした学生による学修成果の自己評価の実施、医学部ポリシー改定ワーキンググループの設置とディプロマ・ポリシーならびにカリキュラム・ポリシーの見直しの検討などを実施した。2024（令和 6）年度については以下に取り組んだ。

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

- ・学生がカリキュラムの検討に一層参画する機会と自由を保障することが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会では2022（令和4）年度まで2学年の学生しか参画していなかったが、2023（令和5）年度から全学年について学生委員を選出し参画している〔資料1-01〕〔資料1-02〕。また、カリキュラム評価委員会、卒前教育委員会、ポリシー等策定委員会においては、従来から学生が正式な委員として参画している。2024（令和6）年度も引き続き、これらの委員会に学生が出席し、意見を述べている。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料1-01 令和6年度第1～6回医学部カリキュラム委員会議事録
- ・資料1-02 令和6年度医学部カリキュラム委員会委員一覧
- ・資料1-03 令和6年度第1、2回医学部カリキュラム評価委員会議事録
- ・資料1-04 令和6年度ポリシー等策定委員会議事録

1.3 学修成果

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・知識・技能・態度を統合した実践力として学修成果とマイルストーンを詳細に定めていることは評価できる。

改善のための助言

- ・学生や教職員などに対して学修成果のさらなる周知を図るべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

従来通り、1年生から4年生については毎年4月と9月の2回、5年生と6年生については1回、オリエンテーションにおいて学修成果の周知を行っている〔資料1-05〕。全学生の出席が見込まれる導入クリニカル・クラークシップユニット、クリニカル・クラークシップstep1、2、3コースのオリエンテーションにおいても学修成果の周知を行っている〔資料1-06～10〕。さらに、学修成果を記載した学生便覧を全学生に配布している〔資料1-11〕。また、教員に対してもクリニカル・クラークシップstep1、3コースにおいて学修成果のFDを行っている〔資料1-12〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料1-05 1年～4年のオリエンテーション資料
- ・資料1-06 PreCC1のオリエンテーション資料
- ・資料1-07 PreCC2のオリエンテーション資料
- ・資料1-08 CCstep1オリエンテーション資料
- ・資料1-09 CCstep2オリエンテーション資料
- ・資料1-10 CCstep3オリエンテーション資料

- ・資料 1-11 2024 年度学生便覧
- ・資料 1-12 CCstep1、3 用教員 FD 資料

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・医学研究、国際保健に関してマイルストーンをさらに充実することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024（令和 6）年度にカリキュラム委員会のもとに設置されたマイルストーンワーキンググループでマイルストーンの見直しを行った。いわゆる研究室配属である研究入門コースが 2 年生に導入されることにともない、2 年生に対して「研究を行うために必要な研究倫理・安全上のルールについて説明できる」というマイルストーンを新たに設定した。また、3 年生に対しては「医学・医療の発展のために研究が重要であることを認識し、研究の計画、実施、結果の解析、発表などの具体的な過程や手法を理解し、研究倫理の基本を踏まえて、取り組むことができる。」という実際に取り組むことまでを求めるマイルストーンに改定した。その他、「医療とそれを取り巻く社会に必要な情報技術を正しく理解し、有効に活用できる」というコンピテンシーに対するマイルストーンを 1 年生から 5 年生までに設定した。また、「根拠に基づく医療 (EBM) に則って症候、病態から疾患を導きだし、治療計画を立案できる。」というコンピテンシーに基づいて、3 年生から 6 年生までに EBM に関するマイルストーンを新たに設定した [資料 1-13]。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-13 マイルストーン改定版（シラバス補遺）

1.4 使命と成果策定への参画

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・ポリシー等策定委員会は、広い範囲の教育の関係者の参加が保障されているが、使命や学修成果の見直しに際しては、広い関係者の意見を確実に聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024（令和 6）年度に開催されたポリシー等策定委員会において医学部ディプロマ・ポリシーの改定案が承認され、正式に運用が始まった。このポリシー等策定委員会には広い

範囲の教育関係者として、新たに乳癌患者会の代表者が正式な委員として参画し、審議に加わっている〔資料 1-04〕〔資料 1-14〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 1-04 令和 6 年度ポリシー等策定委員会議事録
- ・資料 1-14 令和 6 年度ポリシー等策定委員会委員一覧

2. 教育プログラム

評価報告書の領域 2.2、領域 2.5 および領域 2.8 の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、研究マインドの醸成、診療参加型臨床実習の充実、研修協力施設に対するアンケート調査等の助言・示唆を受けた。これらに対し 2021（令和 3）年度～2023（令和 5）年度は、全学生の研究室配属（研究参画）実施のための検討、診療参加型臨床実習の実態調査などを実施した。2024（令和 6）年度については以下に取り組んだ。

2.2 科学的方法

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・研究プロジェクトへの参画や科学的手法を身に付けるカリキュラムをすべての学生に対して提供し、研究マインドの醸成を図るべきである。
- ・臨床実習において EBM を活用するなど、EBM 教育をさらに充実させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024（令和 6）年度にカリキュラム委員会のもとに設置された研究参画ワーキンググループにて研究室配属の配属時期・期間・実施・評価方法などの具体的内容について検討を行い、必修科目として 2025（令和 7）年度に向けたカリキュラム実施案を策定した〔資料 2-01〕。カリキュラム委員会の審議を経て、2025（令和 7）年度からの「研究入門コース」の実施が正式に決定した〔資料 2-02〕〔資料 2-03〕。

診療参加型臨床実習における EBM 教育に関して、各基本学科を対象として EBM 教育の実施状況を把握するための調査を行った〔資料 2-04〕。また、診療参加型臨床実習で活用できる EBM レポート用フォーマットを臨床実習推進室で作成した〔資料 2-05〕。さらに、新たに設定したマイルストーンに則って、5 年生の特別演習に EBM 演習を導入した〔資料 2-06〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-01 第 14-22 回研究参画ワーキンググループ 議事録
- ・資料 2-02 令和 6 年度第 1 回、第 5 回医学部カリキュラム委員会議事録
- ・資料 2-03 令和 7 年度シラバス 2 年生研究入門
- ・資料 2-04 診療参加型臨床実習における「根拠に基づいた医療（EBM）」の教育アンケート調査
- ・資料 2-05 EBM レポート用フォーマット
- ・資料 2-06 5 年生特別演習講義資料

2.5 臨床医学と技能

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・最先端の機能を有する学内 3 病院と学外医療機関を組み合わせる臨床実習が行われている。
- ・低学年から計画的に患者と接する臨床教育プログラムを多数採用している。
- ・JCI 認定に基づいた医療安全研修を学生に行い、患者安全に配慮していることは評価できる。

改善のための助言

- ・各診療科における臨床実習プログラムの内容を医学部として確実に把握し、実質的な診療参加型臨床実習にすべきである。
- ・主要な診療科で実習する期間を十分に確保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

各診療科における臨床実習プログラムが実質的な診療参加型臨床実習になっているかを把握するために、各基本学科を対象に「診療参加型臨床実習における『根拠に基づいた医療（EBM）』の教育アンケート調査」〔資料 2-04〕、「診療参加型臨床実習中に学生に経験させられる疾患アンケート調査」〔資料 2-07〕、「学生が行う医行為に関するアンケート」〔資料 2-08〕、「学生が記載した電子カルテの指導医更新率調査」〔資料 2-09〕を実施し、各調査結果を教育主任等にフィードバックした〔資料 2-10〕。また、診療参加型臨床実習中に学生に経験させられる疾患表に関しては、学生も自由に閲覧できるようにした〔資料 2-11〕。

包括同意書・個別同意書の見直し・改定を行い、運用方法および学生が行う医行為の分類について見直しを行った〔資料 2-12〕。

臨床実習の期間を十分に確保することについては、カリキュラム委員会のもとに設置された新カリキュラム検討ワーキンググループにおいて調査および検討をすすめ、2026（令和 8）年度の 1 年生からの新カリキュラムの導入に向けて準備を行った〔資料 2-13〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-04 診療参加型臨床実習における「根拠に基づいた医療（EBM）」の教育アンケート調査
- ・資料 2-07 診療参加型臨床実習中に学生に経験させられる疾患アンケート調査表の一部抜粋
- ・資料 2-08 学生が行う医行為に関するアンケート（第 182 回臨床実習推進室会議資料）
- ・資料 2-09 学生が記載した電子カルテの指導医更新率調査（第 191 回臨床実習推進室会議資料）
- ・資料 2-10 第 73 回 日高教育主任会議議事録
- ・資料 2-11 WebClass の CC Step1 画面「キャンパス別：学生が診療科で経験できる疾患リスト」
- ・資料 2-12 第 187 回臨床実習推進室会議議事録
- ・資料 2-13 第 5 回新カリキュラム検討ワーキンググループ議事録

2.8 臨床実践と医療制度の連携

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・卒業生のアンケート結果に基づき、心電図の実践的診断や医学英語の授業を充実するなど、教育プログラムの改良につなげている。

改善のための示唆

- ・研修協力施設に卒前医学教育に関するアンケート調査を定期的に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023（令和 5）年度に引き続き 2024（令和 6）年度も研修協力施設に対して卒前医学教育に関するアンケート調査を行った〔資料 2-14〕〔資料 2-15〕。今後も定期的にアンケート調査を実施していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-14 令和 6 年度 埼玉医科大学医学部の卒前医学教育に関するアンケート調査について（協力をお願い）
- ・資料 2-15 令和 6 年度 埼玉医科大学医学部の卒前医学教育に関するアンケート調査結果

3. 学生の評価

評価報告書の領域 3.1 および領域 3.2 の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、評価方法のシラバスへの記載の充実、技能・態度評価の拡充、評価の内容・方法の専門家による吟味、評価結果に対する疑義申し立て制度、評価の信頼性と妥当性の検証、マイルストーン達成評価と学修成果との整合性の検証、「修学カルテ」の活用と学修成果の達

成度評価・形成的評価の充実、各学年における試験の回数・日程の調整、ユニットの試験結果のフィードバックの充実等の助言・示唆を受けた。これらに対し 2021（令和 3）年度～2023（令和 5）年度は、評価方法のシラバスへの記載の充実、カリキュラム評価委員会のもとに学習者評価検討小委員会を設置し信頼性と妥当性の検討、異議申し立て制度の運用、カリキュラム委員会によるコンピテンシーの見直し、「修学カルテ」の改良、診療参加型臨床実習における 360 度評価の導入・拡充などを実施した。2024（令和 6）年度については以下に取り組んだ。

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・各ユニットの評価方法について、シラバスへの記載を充実すべきである。
- ・mini-CEX、360 度評価などを用いて技能・態度評価をさらに拡充すべきである。
- ・評価の結果だけでなく、評価の内容、方法についても当事者以外の専門家による吟味を進めるべきである。
- ・評価結果に対して、疑義申し立て制度を適切に運用すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023（令和 5）年度に引き続き、2024（令和 6）年度についてもユニットディレクター（科目責任者）以外の教員によるシラバス点検を実施した〔資料 3-01〕〔資料 3-02〕。このシラバス点検においてはユニットの到達目標、講義内容とモデル・コア・カリキュラムとの関連性、キーワード、評価方法、事前学修内容、事後学修内容などを点検し、ユニットディレクターにフィードバックしている〔資料 3-03〕〔資料 3-04〕。これらの過程で各ユニットの評価方法がシラバスに記載されていることを確認した。次年度以降も継続して行う計画である。

臨床実習における 360 度評価は国際医療センターにおいて看護師、患者さんからの評価を実施してきた〔資料 3-05〕。2023（令和 5）年度からは総合医療センターにおいても看護師による 360 度評価を導入し、評価結果については学生にもフィードバックを行った〔資料 3-06〕。2024（令和 6）年度からは大学病院においても看護師による 360 度評価を開始した〔資料 3-07〕。

2024（令和 6）年度も、成績異議申し立てがユニット試験、卒業試験、共用試験 CBT および OSCE についてあり、それぞれ「成績評価に対する異議申し立て検討小委員会」が開催され、適切に対応した〔資料 3-08〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-01 令和 7 年度 シラバス作成について
- ・資料 3-02 令和 7 年度 シラバス作成依頼

- ・資料 3-03 令和 7 年度 シラバスの相互点検について
- ・資料 3-04 令和 7 年度 シラバス相互点検結果
- ・資料 3-05 第 181 回臨床実習推進室会議議事録
- ・資料 3-06 第 80 回川越教育主任会議議事録
- ・資料 3-07 第 188 回臨床実習推進室会議議事録
- ・資料 3-08 成績評価に対する異議申し立て検討小委員会 報告書

3.2 評価と学修との関連

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・ユニットによるマイルストーン達成評価を導入している。
- ・学修成果の達成度評価、形成的評価を行うために「修学カルテ」を用いている。

改善のための助言

- ・ユニットによるマイルストーン達成評価と学修成果との整合性をさらに検証すべきである。
- ・「修学カルテ」をさらに活用して学修成果の達成度評価、形成的評価を進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024（令和 6）年度には、卒前教育委員会やカリキュラム委員会で学生の意見を聴いた上で、学修成果の達成度とコンピテンシーの概念図を作成した。学修成果の達成度とコンピテンシーの概念図は 2025（令和 7）年度の学生便覧に掲載の上、学生に配布し周知した〔資料 3-09〕。さらに、マイルストーン評価を担当するユニットとマイルストーンのマトリックス表を作成し、2025（令和 7）年度シラバスの補遺として学生に周知した〔資料 3-10〕。

また、2024（令和 6）年度の 1 年生については、実際のマイルストーン評価について各ユニットの定期試験の問題の中にマイルストーンに該当する問題を設定し、その問題の評価をもってマイルストーン評価とする制度を運用した。

学生のオリエンテーション、教員 FD において、評価の意義、目的などの周知を徹底し理解を深めたことで、修学カルテの入力率が向上した〔資料 3-11〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-09 医学部のアウトカムとコンピテンシー（学生便覧 Page22）
- ・資料 3-10 コンピテンシーとコースユニットのマトリックス（シラバス補遺 Page15）
- ・資料 3-11 修学カルテ記載の入力率向上率データ

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・学修効果を高めるために、各学年における試験の回数、日程を調整することが望まれる。
- ・総合試験や卒業試験だけでなく、ユニット試験についてもフィードバックをさらに進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会のもとに設置された学習評価ワーキンググループにおいて、各学年における試験の回数や日程についての検討を行った〔資料 3-12〕。2026（令和 8）年度から導入される新カリキュラムに合わせて新たに策定した試験の在り方に関するポリシーに則って試験を実施する計画である〔資料 3-13〕。試験期間内のユニット試験の配置を決定することについては、決定手順を明記する方針とし、2026（令和 8）年度の試験に対して運用できるよう準備を進めることとした〔資料 3-14〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-12 令和 6 年度カリキュラム委員会学習評価ワーキング会議記録
- ・資料 3-13 令和 6 年度第 6 回医学部カリキュラム委員会議事録
- ・資料 3-14 令和 6 年度第 10 回今後の授業の在り方ワーキンググループ 記録

4. 学生

評価報告書の領域 4.1 および領域 4.4 の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、入学決定に対する疑義申し立て制度、使命の策定や教育プログラムの策定・管理・評価を実施する委員会への幅広い学年の学生の参画等の助言・示唆を受けた。2024（令和 6）年度については以下に取り組んだ。

4.1 入学方針と入学選抜

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・入学決定に対する疑義申し立て制度を採用し、明示することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

入学決定に対する疑義申し立てに関して、「2025 年度(令和 7 年度)学生募集要項」に記載し、2024（令和 6）年度に実施した入学者選抜から適用されている〔資料 4-01〕。その結果、2025 年度入学者選抜（一般前期）で異議申し立てがあり、医学部入学試験検討小委員会、医学部入学試験委員会が開催され審議を行い、教員代表者会議（本学医学部の教授会にあたる）で審議し、対応が決定された〔資料 4-02～04〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4-01 2025 年度(令和 7 年度)学生募集要項
- ・資料 4-02 令和 7 年度第 1 回医学部入学試験検討小委員会議事録（2025 年 5 月 8 日開催）
- ・資料 4-03 令和 7 年度臨時医学部入学試験委員会議事録（2025 年 5 月 16 日開催）
- ・資料 4-04 第 583 回教員代表者会議議事録【抜粋版】（2025 年 5 月 23 日開催）

4.4 学生の参加

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・使命の策定や教育プログラムの策定・管理・評価を実施する委員会に幅広い学年から学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023（令和 5）年度に引き続き、カリキュラム委員会には全学年から学生代表が参加し、議論に加わっている。カリキュラム委員会において学生代表から卒業試験の実施日程について意見が述べられ、審議の結果、学生の希望通り卒業試験日程を変更することとなった〔資料 4-05〕〔資料 4-06〕。また、ポリシー等策定委員会にも学生代表が参加し、議論に加わっている〔資料 4-07〕〔資料 4-08〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 4-05 令和 6 年度医学部カリキュラム委員会委員一覧
- ・資料 4-06 令和 6 年度第 1～6 回医学部カリキュラム委員会議事録
- ・資料 4-07 令和 6 年度ポリシー等策定委員会委員一覧
- ・資料 4-08 令和 6 年度ポリシー等策定委員会議事録

6. 施設・設備

評価報告書の領域 6.2、領域 6.3、領域 6.4、領域 6.5 および領域 6.6 の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、各学生が担当した患者数と症候・疾患分類の把

握、学外の臨床実習指導医に対する FD、インターネット環境の改善、研究マインド涵養のための環境とカリキュラムの整備、医学教育に関する研究・開発の発展と発信、教職員・学生の国際交流の発展等の助言・示唆を受けた。これらに対し 2021（令和 3）年度～2023（令和 5）年度は、学外の臨床実習指導医に対する FD、カリキュラム委員会への研究参画ワーキンググループの設置と全学生の研究室配属（研究参画）の検討、インターネット環境の改善などを実施した。2024（令和 6）年度については以下に取り組んだ。

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・総病床数 2,718 床の学内 3 病院を有し、臨床実習を行うための十分な患者数と多様な疾患が確保されている。
- ・県内の 38 病院と 5 診療所を指定学外臨床実習施設として、地域医療、在宅医療、健康増進、予防医学を学べるプログラムが提供されている。
- ・多数の臨床系教員、臨床研修指導医が学生の教育に参加していることは評価できる。

改善のための助言

- ・各学生が担当した患者数と症候・疾患分類を把握して分析し、学生が適切な臨床経験を積めるように整備すべきである。
- ・学内の教員だけでなく、学外の臨床実習指導医に対しても教育法や評価法について十分な能力開発を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023（令和 5）年度に引き続き、2024（令和 6）年度も臨床実習において各学生が担当した患者数と症候・疾患分類を把握するために本学の LMS である WebClass の「修学カルテ」に学生に入力させるようにした〔資料 6-01〕。月に 1 度、入力状況を学生に提示することで学生に入力を促し、入力率向上に努めた〔資料 6-02〕。

また、学外の臨床実習指導医の能力開発に関しては年に 2 回（7 月、2 月）指定学外施設懇談会を開催し、能力開発に関する教育講演を継続して行った〔資料 6-03〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 6-01 修学カルテ_経験疾患入力フォーム
- ・資料 6-02 修学カルテ記載の入力率向上率データ
- ・資料 6-03 令和 6 年度埼玉医科大学 第 1 回・第 2 回「臨床実習指定学外施設懇談会」次第

6.3 情報通信技術

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・学修効果を高めるために、インターネット環境へのアクセスをより改善すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024（令和6）年に6年生の代表から学習棟（6年生のためのグループ学習の施設）において、インターネットが非常に遅いとの申し入れがあった。これを受け、情報技術支援推進センターで確認の結果、通信装置の一部の速度が遅いことが判明した。当該の通信装置を100Mbpsから1Gbpsに変更したところ、通信速度が改善された。

改善状況を示す根拠資料

・なし

6.4 医学研究と学識

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・研究マインドの涵養を促進するために、学生が医学研究や開発に直接関与できる環境とカリキュラムを整えることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2023（令和5）年度に引き続き、カリキュラム委員会の研究参画ワーキンググループで検討を重ね、2025（令和7）年度から2年次に全員必修の研究入門コースを開設することが決定された〔資料6-04〕〔資料6-05〕。この決定を受け、2025（令和7）年度シラバスを作成した。具体的な研究課題内容を学生に提示するため、各基本学科（教員）宛に研究課題についての調査を実施した。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料6-04 第14-22回研究参画ワーキンググループ 議事録
- ・資料6-05 令和6年度第4-5回医学部カリキュラム委員会議事録
- ・資料6-06 令和7年度シラバス2年生研究入門
- ・資料6-07 2024年度学生の研究(室)配属に関する調査結果概要

6.5 教育専門家

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・学内外の教育専門家が参加する医学教育ワークショップFDが開催され、教員の教育能力向上に活用されている。

改善のための示唆

- ・医学教育に関する研究開発をさらに発展させ、国内外に発信することが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024（令和6）年度は、日本医学教育学会が発刊する雑誌「医学教育」に1編、その他の教育関連雑誌に1編の論文を投稿し掲載された〔資料6-07〕。また、医学教育関連学会において22題の演題を発表した〔資料6-08〕〔資料6-09〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料6-08 掲載論文2編
- ・資料6-09 令和6年度学会演題リスト

6.6 教育の交流

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・教職員、学生の国際交流をさらに発展させ、国際的な視野を培うことを促進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024（令和6）年度は10校と国際交流を行った〔資料6-11〕。タイのランシット大学と2024（令和6）年12月に国際交流のMOUを締結した〔資料6-12〕。2025（令和7）年度より、本学学生の派遣を開始し相互交換留学としての国際交流へ深化させる。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料6-10 2024年度第1-11回国際交流センター委員会議事録
- ・資料6-11 第578回教員代表者会議議事要約

7. 教育プログラム評価

評価報告書の領域7.1、領域7.2、領域7.3および領域7.4の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、モニタ・評価する仕組みの実質化とそれに基づくカリキュラム改善、社会的責任の観点からの評価、卒業生の追跡とそれによる長期間で獲得される学修成

果の評価、教員と学生による系統的なフィードバックとそれに基づく改善、卒業生の実績の収集と分析、学生の実績に関する分析の委員会へのフィードバック、より広い範囲の教育の関係者からのフィードバック等の助言・示唆を受けた。これらに対し 2021（令和 3）年度～2023（令和 5）年度は、「アセスメント・ポリシー」および「アセスメント・プラン」の策定とそれに基づくデータの蓄積と分析、IR センターによるユニット評価調査の実施と集計・分析などを実施した。2024（令和 6）年度については以下に取り組んだ。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・カリキュラムと学修成果をモニタ・評価するために階層化された複数の仕組みが構築され、IR センター、調査解析室および臨床実習推進室により、学生と教員から多くのデータ収集が開始されている。

改善のための助言

・教育プログラムをモニタ・評価する仕組みは始まったばかりであり、新カリキュラムを体系的に評価し、カリキュラム改善に確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024（令和 6）年 5 月に開催されたカリキュラム評価委員会において、IR センターからの報告について審議を行い、その結果、以下の 3 点をカリキュラム委員会に提言することになった。1) 臨床実習における質と量のさらなる充実、2) 3 病院における臨床実習内容に差異が生じないようにすること、3) 研究マインドや国際的視野を涵養するための研究室配属を早期に実現すること〔資料 7-01〕。

それを受けて、2024（令和 6）年 7 月開催のカリキュラム委員会において、診療参加型臨床実習の期間を拡充するために新カリキュラム検討ワーキンググループを設置し、検討を開始した〔資料 7-02〕〔資料 7-03〕。診療参加型臨床実習の教育の質の向上については、臨床実習推進室で診療参加型臨床実習における「根拠に基づいた医療（EBM）」の教育アンケート調査、診療参加型臨床実習中に学生に経験させられる疾患アンケート調査を実施し、実態の把握を行った〔資料 7-04〕。診療参加型臨床実習中に学生に経験させられる疾患の調査結果については、学生が自由に閲覧できるよう WebClass に掲載した〔資料 7-05〕。EBM 教育に関してはレポート用 EBM フォーマット案を作成した〔資料 7-06〕。3 病院における臨床実習の差異を改善するために、臨床実習推進室が「学生の医行為アンケート」を行い、各診療科が学生に指導している「学生の医行為」の実態把握を行った〔資料 7-07〕。

また、カリキュラム評価委員会の提言を受け、カリキュラム委員会の研究参画ワーキンググループで研究室配属について検討を重ねた結果、2025（令和 7）年度から 2 年次に全員必修の研究入門コースを開設することが決定された〔資料 7-08～10〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-01 令和 6 年度第 1 回医学部カリキュラム評価委員会議事録
- ・資料 7-02 令和 6 年度第 2 回医学部カリキュラム委員会議事録
- ・資料 7-03 第 3 回カリキュラム委員会資料(3, 4, 5 年生担当_新カリキュラム検討ワーキンググループ)
- ・資料 7-04 診療参加型臨床実習における「根拠に基づいた医療 (EBM)」の教育アンケート調査 (第 187 回臨床実習推進室会議資料)
- ・資料 7-05 WebClass の CC Step1 画面「キャンパス別：学生が診療科で経験できる疾患リスト」
- ・資料 7-06 EBM レポート用フォーマット
- ・資料 7-07 学生が行う医行為に関するアンケート (第 182 回臨床実習推進室会議資料)
- ・資料 7-08 第 14-22 回研究参画ワーキンググループ議事録
- ・資料 7-09 令和 6 年度第 4-5 回医学部カリキュラム委員会議事録
- ・資料 7-10 令和 7 年度シラバス 2 年生研究入門

質的向上のための水準

特記すべき良い点 (特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・埼玉医科大学が置かれた地域的・社会的状況を分析し、社会的責任の観点から包括的に教育プログラムを評価することが期待される。
- ・卒業生を追跡し、長期間で獲得される学修成果を評価することが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

埼玉医科大学が置かれた地域的・社会的状況から地域医療を担う医師の育成が重要であることを確認し、2022 (令和 4) 年度から文部科学省助成金を受け、ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業として「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人育成事業」を開始した。本事業においては、毎年、外部評価委員による教育プログラム評価を受けている。2024 (令和 6) 年度についても外部評価を受け、長所と改善すべき点の指摘を受けた [資料 7-11]。

また、地域の要望を汲み取るため毎年、日高市および毛呂山町から本学の教育に関する意見書をいただいている [資料 7-12]。この内容はカリキュラム評価委員会で審議され、必要に応じてカリキュラム委員会にフィードバックしている。

卒業生を追跡し、長期間で獲得される学修成果を評価するために、卒後 2 年目の研修医を対象とした卒業生アンケートを実施し、分析し、その結果を学外ホームページで公開している [資料 7-13]。分析結果はカリキュラム評価委員会で審議された [資料 7-01]。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-11 令和 6 年度埼玉・群馬未来医療人育成外部評価委員会評価報告書
- ・資料 7-12 日高市・毛呂山町からの意見書

- ・資料 7-13 令和 5 年度埼玉医科大学医学部卒業生アンケート結果
- ・資料 7-01 令和 6 年度第 1 回医学部カリキュラム評価委員会議事録

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・Web を用いた教員アンケート調査が、約 72 パーセントの回収率で行われ、フィードバックの情報が得られている。

改善のための助言

- ・教育プログラム全体に対する評価を教員と学生に求め、分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム全体に対する評価を集め、分析するために、2023（令和 5）年度に引き続き 2024（令和 6）年度も 6 年生を対象とした卒業時満足度調査を実施した〔資料 7-14〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-14 令和 6 年度埼玉医科大学医学部卒業時満足度調査（自由記載部分削除）

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・教員と学生からのフィードバックの結果に基づいて、教育プログラムの改善に役立てることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

4 年次、5 年次に実施している CCstep1 特別演習（原則毎週土曜日の 1 時限から 3 時限）という教育プログラムについて、学生にアンケート調査を実施したところ、毎週土曜日 3 コマでは体力的に厳しいという個別の意見も含め、全体としてもコマ数が多いという意見が 84%であった〔資料 7-15〕。このフィードバックの結果に基づき、臨床実習推進室会議で審議の結果、2 コマに減らすこととなり、2025 年 1 月から教育プログラムを変更した〔資料 7-16〕〔資料 7-17〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-15 CCstep1 特別演習ポストアンケート
- ・資料 7-16 第 190 回臨床実習推進室会議議事録
- ・資料 7-17 特別演習令和 5 年度、令和 6 年度コマ割り一覧

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・IR センター、調査解析室および臨床実習推進室により、学生、卒業生のデータを収集する仕組みが運用されている。

改善のための助言

- ・カリキュラムの改善のために、卒業生の診療、教育、研究に関する実績の収集と分析を進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラムの改善を目的とし、卒業生の実績を収集し分析するために、卒後 2 年目の研修医を対象とした卒業生アンケートを実施した。分析結果はカリキュラム評価委員会で審議され、学外ホームページでも公開されている〔資料 7-13〕。

2023（令和 5）年度に引き続き 2024（令和 6）年度も研修協力施設に対して卒前医学教育に関するアンケート調査を行った〔資料 7-18〕〔資料 7-19〕。今後も定期的にアンケート調査を実施していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-13 令和 5 年度埼玉医科大学医学部卒業生アンケート結果
- ・資料 7-18 令和 6 年度 埼玉医科大学医学部の卒前医学教育に関するアンケート調査について（協力のお願ひ）
- ・資料 7-19 令和 6 年度 埼玉医科大学医学部の卒前医学教育に関するアンケート調査結果

7.4 教育の関係者の関与

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・卒業生の実績やカリキュラムについて、広い範囲の教育の関係者からより実質的なフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒業生の実績やカリキュラムについて、広い範囲の教育の関係者からフィードバックを求めるために、IR センターが 2023（令和 5）年度に「2023 年度埼玉医科大学医学部の卒前医学教育に関するアンケート調査」を実施した。この分析結果を 2024（令和 6）年のカリキュラム評価委員会で審議し、その結果をカリキュラム委員会にフィードバックすることによって、PreCC1-1, 1-2 の臨床推論の実施方法を大幅に変更した。これまでは医学教

育センターの教員が中心となって運営していたものを症候別に臨床教員が担当して、学生との双方向性実習へと変更した〔資料 7-20〕〔資料 7-21〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-20 令和 6 年度第 1 回医学部カリキュラム委員会議事録
- ・資料 7-21 Pre-CC1-1, 2-1 の臨床推論演習実施方法の変更について（令和 6 年度第 1 回医学部カリキュラム委員会資料）

8. 統括および管理運営

評価報告書の領域 8.3 および領域 8.5 の「改善のための助言」や「改善のための示唆」において、インターネット環境の整備、地域の医療ニーズを踏まえた交流の活発化等の助言を受けた。これらに対し 2021（令和 3）年度～2023（令和 5）年度は、大学のインターネット回線の増速、群馬大学と連携した文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業による地域医学の教育プログラムの開発・実践などを実施した。2024（令和 6）年度については以下に取り組んだ。

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・カリキュラムの改善に必要な教育施設に積極的に予算配分を行っていることは評価できる。
- ・新型コロナウイルス蔓延に対する臨機応変な対応がなされ、学生への支援が行われた。

改善のための助言

- ・インターネット環境を学生や教職員のニーズに応じて改善すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024（令和 6）年に 6 年生の代表から学習棟（6 年生のためのグループ学習の施設）において、インターネットが非常に遅いとの申し入れがあった。これを受け、情報技術支援推進センターで確認の結果、通信装置の一部の速度が遅いことが判明した。当該の通信装置を 100Mbps から 1Gbps に変更したところ、通信速度が改善された。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・地域枠拡充など、医師不足の深刻な埼玉県 of 行政部門と密接に連携していることは評価できる。

改善のための助言

・地域の医療ニーズを分析し、交流をさらに活発化させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022（令和 4）年度に開始した本学と群馬大学との共同事業「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業」では、2024（令和 6）年度も継続して群馬大学と連携し、両県の県境の医師不足地域の医療機関とも連携して、学生が医師不足地域を理解するための実習を実施した。埼玉県及び埼玉県医師会と連携し、地域医療の課題となっている在宅医療を医学部 1 年生全員が体験するプログラムを開始した〔資料 8-01〕〔資料 8-02〕。2025（令和 7）年 3 月 2 日には、医師不足地域の医療機関の代表者、両県医師会、両県医療政策関係者等の参加を得て連携推進会議を開催した。その中で、高校生や医学部低学年から地域や地域医療の現場を見学させ、地域医療のニーズを理解させることによって、地域医療に従事する志を育成することが要請された〔資料 8-03〕。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 8-01 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成プロジェクト中間報告書
- ・資料 8-02 2024 年度埼玉医科大学医学部 1 年生「在宅医療早期体験実習」実施報告書（抜粋）
- ・資料 8-03 令和 6 年度 第 1 回埼玉・群馬未来医療人育成連携推進会議 議事録

9. 継続的改良

評価報告書の領域 9 の「改善のための助言」において、継続的改良を行うための体制をより充実させ、教育に関連する各組織が有機的に連携して、教育プログラムの継続的な改良を進めるべきであるとの助言・示唆を受けた。2024（令和 6）年度については以下に取り組んだ。

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・教育課程、学修成果/コンピテンシー、学生評価ならびに教育資源を自己点検し、課題に対して継続的に改良する努力を続けている。

改善のための助言

・継続的改良を行うための体制をより充実させ、教育に関連する各組織が有機的に連携して、教育プログラムの継続的な改良を進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024（令和6）年度は、上記の領域1から領域8に記載の通り、継続的改良を行うための体制の充実と連携、教育プログラムの継続的な改良に取り組んだ。次年度以降も、継続して改良に取り組んでいく。